

令和4年度富山県文化審議会

日 時：令和2年2月22日（水）

午前10時00分～11時30分

場 所：富山県民会館401会議室

■議事

【会長】

本日は前回に引き続き、「新世紀とやま文化振興計画」に係る後期重点施策の策定について、中間報告案をご審議いただきます。

前回10月の本審議会の後、皆様方からいただいたご発言などをもとに、事務局でまとめた後期重点施策の策定中間報告案について委員の皆様からご意見、ご提案等いただきたい。では事務局からお願いいたします。

<事務局説明>

【会長】

ただいま事務局から説明がありました中間報告案は、国の中間報告とも整合性をとりながら、委員の皆さんからのご意見などを踏まえ、具体的な取組みが盛り込まれているようです。

さらに記述が欲しい部分、それから、関連事業について、令和5年には入っていないものの、それ以降でも検討すべきものについて、ご意見いただきたい。

【〇〇委員】

富山県の文化政策は、日本でも有数の成功しているものではないか。

例えば富山県美術館では、屋上からの眺望の素晴らしさを利用して、子供たちが遊べる公園を作っていて、遊びに来た子供が何となく美術館を見て帰っていくという、素晴らしい仕掛けができていると思います。

また、副館長の一人が県のデザインセンターのセンター長であり、工芸やデザイン、そして美術がうまく関連するような形になっている。

それから、立山には立山博物館と並んで、立山カルデラ博物館がある。理系の地質関係

のものも、立山の成り立ちとか、視覚上の特徴を知ることができ、それも文化の理解につながる。そういう意味で大変素晴らしいと思います。

それから、芦峯寺の布橋灌頂会も大変素晴らしい伝統的なお祭りですが、こうしたコロナで開催できなくなっている地域のお祭りも、目を向けて、参加者が少なくなってきたようなところは支援し、コロナ以前の賑わいを取り戻すようにしていただければといいと、思います。

文化、地域の文化を振興するという事は、県民の方々が何気なく文化のよさを味わえる雰囲気づくりが非常に重要だと思います。

また、富山県芸術文化協会は、素晴らしい活動をしている。既存のものをバックアップすれば、もっと富山県全体の文化振興に繋がると思います。

また、県植物園なども植物や自然を知ること、富山県の文化への理解をより充実させることに繋がる。いろいろな既存の施設の横の連携を更に高めていけばですね、大変素晴らしいものになる。

それから、今、文化観光が重要になっている。世界の貿易額のトップは化学・肥料など、2番目がオイル、3番目がツーリズムになっている。

世界的に見て観光需要はかなり潜在的にあって、コロナが終わればかなり爆発的に観光客が来る可能性がある。オーバーツーリズムになることを十分意識しておく必要がある。

オーバーツーリズム対策として、文化観光では一人一人の滞在時間を長くする。つまり、できるだけ長期間宿泊してもらい、いろいろな地域の文化を楽しんでもらうようにしていくべき。日本政府はインバウンドが、何人来たといっているが、これは観光政策としては初期の話で、スイスなどは何人来たではなくて、何泊したか数えていく。観光として何泊富山に滞在したかを指標とすべき。

そうした観光振興の一つの方策としても、文化振興があると考えていただければと思う。

一つの点のみを強調するのではなく、全体的にバックアップすることにより、全ての文化が活性化していくような進め方が重要ではないかなと考えている。

【〇〇委員】

県民以外の方から富山県の魅力を総合的にいろいろご指摘いただくというのは、とても県民にとってはありがたく、地域を見直し、富山に住んでよかったという気持ちを持つ要因になると思う。

中間報告案は三つの重点施策に全体的に網羅されており、素晴らしいと思う。

特に私としては、高志の国文学館の「雲の向こうはいつも青空」というキャッチコピーがとても良い。素晴らしいものがあったとしても、外部に発信する力が弱いと富山県民は言われています。わかりやすく、そして心がワクワクするような、そういう宣伝キャッチコピーがこれからもっと必要になるだろうと思うので、いろんな方たちデザイナー、富山県では大変職業人として増えているとも聞くが、そういう力も借りながら取り組みを進めていけばよいのではないかと。

茶道について、格調の高い四畳半の小間で、修行を積んだ茶人たちによる茶会、それも一つの本流ですが、多くの皆様に日本の伝統文化である茶道を知っていただくという点では、富山県は人口比で茶道が文化活動の中で全国一位という結果が出ている。茶道人口が減っているのが悩みの種だが、いろんな人たちに、茶道に関わるきっかけ、軽く入れるような敷居が低い、そういう部分がこれから大事になってくるだろうと思う。そういうところから入っていただいて、だんだんと奥を探究してもらい流れになるだろう。コラボという形で、茶道連盟を様々な分野、部分で活用することで、茶道としても広がっていく。異分野の様々な芸術家たちのコラボレーションがこれからは大変重要な形で、いろんなエネルギーとエネルギーがぶつかって、新たな分野を切り開いていくことも大事ではないかと思う。

そして最後に提案なんですけども、過去には県民1スポーツとか、県民1何とかと言われたが、キャッチコピーのように県民1文化活動みたいなものを提案できれば、県民が文化活動の重要性とか楽しさとかゆとりを感じられることに繋がるのではないかと思う。

【〇〇委員】

本日の「新世紀とやま文化振興計画」ですが、みんなで楽しむ、人を育てる、基盤を支える、それから既存を伸ばす、新たに打ち出す、そしてまた、観光等で利益を生み出す、というような、非常に多方面からの計画になっておりまして、私的には素晴らしいなと思う。

文化を楽しむ土壌の充実、支援の充実という点が、非常に大切なことではないかと思っています。楽しいことの中に、意識しない大きな学びがあり、体験してもらうことが、子供のみならず、大人においても、成人したものにおいても、非常に豊かな人生に繋がる。豊かな楽しみの中に、歴史を知り文化を知るといふことがある。

【〇〇委員】

前回の委員の提案が全て網羅されていると感じる。

富山県は本当に美術館・博物館の数がとても多い。県立以外にもたくさんの美術館・博物館があることは大きな財産であり、その横の繋がりを、強めるべき。小さな美術館にもそれぞれ特色・魅力があるので、ネットワークや周遊の仕組み、情報提供による美術館・博物館の繋がりができれば、県民の皆さんにさらに楽しんでもらえるのではないか。

【〇〇委員】

富山は宣伝ベタという印象があるが、特に今年はコロナで中止となっていた祭りやイベントを行うところが大分増えてきたので、打って出ていく必要がある。また、文化財としての指定・未指定に関係なく、町並み、その町並みに係る祭りがあり、それぞれの地域において、それも競い合っている。皆うちが一番っていう意識でやっているのだから、県内では他のところを見に行かないという雰囲気がある。これまでお話のあった横の連携もあるが、これだけ祭りや町並みなど美しいところがあるので、県が中核として、いつ、どこで、どんな祭りがあるか、全県下1年間を通して把握できるよう整理、発信に努めるべき。いろんな種類の獅子舞や曳山が各地で行われているので、概要を整理し、国内の人のもとより、コロナ禍でなかなか来られなかった外国人を含め、伝わるようにしないといけない。

また、祭りなどをやっている人にとっては、県外・県内の多くの人に見てもらうことが、自分たちの祭りの素晴らしさの実感、自分の町の誇りに繋がり、引いては後継者の育成にも繋がっていく。

観光面では五箇山や立山などの素晴らしい自然遺産に加えて、立山山岳信仰がわかるコースだとか、海の方では環水公園、富岩運河から船に乗って、岩瀬の町並みを見るコースなど、いろんなモデルコースをたくさん作っておくべき。地元の郷土料理など地元の文化を体験できるもの。また、勝興寺が国宝になったことを機に、真宗王国として勝興寺だけではなく、井波の瑞泉寺、城端の善徳寺、それ以外にも浄土真宗系、一つの宗派だけを応援するとちょっとまずいかもかもしれませんが、ただ、真宗王国という点は今回の国宝の指定に関して大分ポイントになっていることもあり、そうした富山ならではの巨大な伽藍が勝興寺に限らず、数多く残っていることも、全国の方に届くようにすべき。

点じゃなくて面で広げて、富山の魅力を発信していただければと思う。

【〇〇委員】

中間報告案を拝見して、時代の流れの中で人の考え方、ライフスタイルの変化、流行など、今必要とする傾向を反映されていてとてもいいのではではないかと思う。

現在、コロナ禍からほぼ通常の状態に戻りつつある中、やはり芸術文化を心と体で感じて、表現力豊かな、創造力豊かな人材を育てることはとても大事なことだと思います。

特に子供たちが芸術の創造とか、鑑賞の機会を充実するために、大人がどのように関わっていくかというの、考えなくてはならないと思う。その中で、富山アーティストマッチング事業、これは重要な役割を果たしていくのではないかと思う。やはり指導者の育成も力を入れていくべきだと思う。

芸術文化が指導、芸術文化が学校教育と連携することで、より多くの子供たちが芸術文化に関わるチャンスが与えられると思う。そして、いろいろな分野に対しての興味、関心を持つことで、学びの入口、勉強以外の何か自分の趣味であったり、これからの目標だったりという、入口を広げることもできるのではないかと思う。特に、多感な年齢の子供たちの表現力の幅も広がっていくのではないかと思う。

特色ある国際的な芸術文化事業は、継続の努力はもちろん重要だが、周りの方々、県民の方々の関心をもっと持ってもらえるような、鑑賞の機会や参加の機会につなげていく努力はもっと必要ではないかと思う。

芸術文化を支える人材育成というところから、富山県内の国公立の文化ホールの職員の方、特に舞台技術者の技術の高さというのは、全国的にもすごく評価が高い。特定の職員の退職後も、技術水準を維持できるようもっと研修機会があればよいのではないかと見受けられる。ぜひ、富山ならではの舞台作りの中の人員として、県立ホールとか、公立文化ホールの職員の育成にも力を入れていくべきと思う。

【〇〇委員】

高校生は視点から言いますと、今高校生はとても元気を取り戻しつつあります。コロナ以前のように、各学校でのコンサートや文化祭など、たくさんのイベント等も行われています。

また、学校や専門部での文化活動についても、感染対策もとりながら、いろいろと発信

しているところです。富山県の高文祭が11月に行われたが、昨年の経験を生かしながら、自分達の発表や展示工夫し、県民の皆様、そして友達、友人などに作品を発表することができました。

文化部に入部する生徒たちが少なくなってきたが、文化を伝承できるよう、文化部の魅力をぜひ発信していきたい。そういうものを支援したいと思いますので、是非ともよろしくをお願いします。

【〇〇委員】

観光に関する部分、文化観光、あるいは今後増加するインバウンドの関係もちゃんと記載されており、大変よくまとまっているのではないかと思います。

細かい点ですが、多言語解説案内、キャッシュレス対応とあるが、外国の方の感想を聞くと、案内の内容が複雑すぎる、あるいは表現が不自然であるとのこと。ぜひ、外国人も理解しやすい、わかりやすい解説文の作成などを施策の推進にあたっては気をつけていただきたい。

また、キャッシュレス対応では、感染の拡大防止の観点から、タッチ決済や、QRコード決済など非接触型のキャッシュレスタイプが進んでいるので、留意いただきたい。

次にⅢの②に入館者数増のための施策を推進とのみ書かれており、内容や目的が不明確であるため、肉付けが必要です。

最後ですが、わかりにくい言葉、リスクリングとか、STEAM教育など、一般的ではない語は注釈が必要と思われる。

事務局にお尋ねしたいのですが、参考1の県民参考指標について、事業の進捗や今回の重点施策の策定を踏まえ、修正・追加の考えがあるのかをお尋ねしたい。

【事務局】 はい。ありがとうございます。

これは平成30年改定時、マスタープランである総合計画との整合を計りながら設定した指標であります。現在、この中間年に当たるR3の実績までをお示しさせていただきました。どの分野を見ましても、コロナの影響を受けておりますが、今後も目標の実現に向けて取り組みを進めたいと考えており、これは後半も前半同様と考えています。

項目は、今日の後期重点施策の三つの柱あるいは、文化振興計画本体に定めている三つの基本目標、これらを網羅するべく、数字としてとらえやすいものを挙げておりますもの

で、この指標は基本的には継続して、今後の進捗を図っていききたいというふうに考えております。また、状況は別途ご報告させていただきたいと思っております。

【〇〇委員】

非常にこれ見ると、非常に全体が網羅されていて、良い計画ができています。

前回の審議会の時に、子供たちに見せるものに、何もわかりやすいものを見せるのではなく、刺激の強いもの、ある意味毒があるものでもいいと、そういうご意見もいただきまして、来年度はSCOTサマーシーズンで、中学生の方にSCOTの代表作のギリシャ悲劇を見てもらおうと思っています。決してわかりやすいものではないが、やはり世界的に評価されているものを、子供のうちから生で触れてもらうというのは非常にいい機会になると思います。

日本の文化は、これから日本の子が、世界、国際的に生きていく中で、非常にプライドになる。経済的にも国際的に地位が低下していると言われていっている中で、日本の文化は本当に世界に誇れるものであるが、まだ日本人そのもの、富山の方が気づいてない。文化そのものが、プライドになるように考えていきたい。

先ほどありました海外の方、インバウンドの数を増やすだけでなく滞在を伸ばすという点について、利賀でもコロナが落ち着いてきたため、外国人の方の受け入れを再スタートした。観劇やトレーニングだけではなく、食文化や伝統文化、あるいは伝統的な建物を見ていただく。農業も文化といえれば文化ですし、これらを全体的に体験していただくような面としての広がりにつなげられればよいと思う。

【〇〇委員】

食文化については、和食が2013年にユネスコ無形文化遺産に認定されて、今年で10年目となり、今年力も入っている年になる。この日本の伝統的な、この和食という食文化を、また私たち日本人にも見直して伝えて浸透させていかないといけない。

関連するこの事業の中に、越中とやま食の王国という、毎年のイベントがあるが、こちらの方でも県民の方を巻き込んだ交流イベントなど、もっと若い人にも来てもらえるようなもの、あるいは県外向けに発信するようなものなどを盛り上げていくと良いのではないかと。

中学校や高校の授業でも、食文化や郷土料理について学んだり、研究したりしていると

思うので、各学校での取組みとかを、イベントの中で発表できるような場を設けてもいいのではないかと。または、昆布や米など富山に関するテーマを決めて、昆布なら、ダシの味比べや料理選手権、お米ならおにぎり選手権など面白いイベントもあると、盛り上がるのではないかと。

各施設の横の繋がりでは、スタンプラリーなどのいろんな施設を見てもらえる企画も考えられる。

【〇〇委員】

アンケート結果では、富山県、富山県民の文化意識の特徴が出てたかと思います。各年代や男女の違い、地域や環境の違いによって、随分格差があると感じました。

ただ、世界の中での富山と日本の中での富山を考えたとき、地域や自然、文化遺産の魅力を発信するということを考えた時、県民が関心を持って触れ合えるような機会、発信の仕方をしていただきたいと思う。

富山県民は子供の文化に触れる必要が本当に大事だよというふうに意識している県民だと思います。子供や青少年そして子供に関わる大人、教員も含め、親とか、地域の人達全部含めたときには、そういう方達も文化に触れる機会を企画されたらよいと思います。

学校教育との連携により次世代を担う子供たちを育てる。地域の力や官民の協力体制、連携など、関係機関との横の繋がり、重なりが本当に大事となる。そういう文化振興関心を持っている県民が少しでも多くなるよう、県民が関心を持って取り組めるような文化の催し、美術館、美術展であったり、イベントであったりの機会を作り、またわかりやすく伝わりやすいイメージで、発信していただきたい。

【〇〇委員】

参考資料1ですね、県立文化ホールの利用率という指標が出ていますが、やはりアマチュアは夜、あるいは土日のみの活動となる。ある時期から市や県の行事で会場が使えないこともある。官側の主催の部分を平日とするよう融通していただくと、文化ホールの利用率ってというのが格段に上がっていくのではないかと。

あと文化施設、博物館、美術館には入館目標者数があると思うが、ぜひ公表していただきたい。そうすれば町内会で行こうとかそういう話になるのではないかとと思います。

文化観光について観光も文化も、地元の人・地域の人が行かないと、県内の人とか国外

の人は、来ない。地元の人をいかに巻き込むか、具体的なものを入れていていただきたい。

先ほど話の出たお祭りの情報の整理・発信については、旅行会社によってはお祭りのカレンダーを作成しており、1月1日から12月31日まで、カレンダーの日ごとに、どこの県でどんなお祭りがあるかわかるようにしている。非常に見やすい。この県版みたいのがあればよいのではないかと思います。

【会長】

人気の文化イベントで会場の収容数の関係でチケットが取れないこともある。そういったものをパブリックビューイングでやっていただければ、例えばグランドプラザであればお酒も飲みながら見られるし、周辺の飲食など街の活性と文化振興がつながる。もうすでに富山県はいろんな施設などが整っているのです、そういうようなものをうまく活用してやっていくと楽しい県になると思う。

【〇〇委員】

私も前回の発言の内容を盛り込んでいただいているということで、大変よかったなと思っております。

県民参考指標「芸術文化に親しむ機会が充足されていると思う人の割合」は、目標は50%となっているが、もう少し高く目標を持たれてもいいのかなと思う。

また、「県民が身近な場で親しむことのできるコンサートの実施数」は令和8年の最終目標が100回以上となっているが、これは、小学校への出前コンサート、現在小学校は約180ありますが、小学校の子供たちには、2年に1回くらいは、そういう機会を与える数にしていたらなと思う。

アフターコロナ時代では、携帯にダウンロード鑑賞の解説を聞くのはもう普通になっている。外国語を選べたりもするので、富山は全体的にデジタル化をするという方針もあるので、そうした取り組みを進められれば良いと思う。

それからもう一つ、県外の若い講師さんがおっしゃっていたのですが、ガラス美術館に行きたくて市電に乗ったが、降りる駅が分からなかったとのこと。より分かりやすくすることを考える必要があるのではないかな。